

## 【春一番】

春二番 春三番

立春を過ぎて最初の強い南風を、気象用語で春一番と呼ぶ。春風、風光る、桜まじなどの風の季語が登場して春らしくなる前に、春一番から始まって、東風、貝寄風、比良八荒、春疾風、涅槃西風の季語が続ぎ、海に囲まれた日本列島の各地域の気象現象をよく現している。多様な日本列島の地形による気象から、その土地ならではの季語が風にはとくに多いことを心得ていて、他の地域で詠むべきではない。

春一番は、関東から九州にかけてよく見られる東南東ないし西南西の強い風である。この日、気温が上昇するが、翌日には西高東低の冬型の気圧配置となって寒さが戻る場合が多い。性質上、雪崩や洪水を起こし、強風が災害をもたらすこともある。

一九七八年、東京で竜巻があり地下鉄の車両が転覆した。一八五九年二月一三日の漁船の転覆で五三名の死者が出た。以来、壱岐で春一とか春一番と呼ぶようになった。郷ノ浦港近くに「春一番の塔」がある。宮本常一がこの壱岐の春一番を『俳句歳時記』に載せてから広まったとされるが、語源には諸説があるという。

春一番は毎年かならず観測されるというものではない。関東地方では最近三〇年で三回「発生せず」となっている。